

ドーガン系の事業組合「マストラオ」

中小の再生支援を強化

公認会計士や
税理士新加入 人員拡充4↓27人

企業の再生支援を手掛けるドーガン・アドバイザーズ(福岡市)は13日、外部の会計事務所などとつくる有限責任事業組合「MASRAO(マストラ)

オ」の人員態勢を現在の4人から27人に大幅に拡充することを明らかにした。借入金返済を一時猶予する中小企業金融円滑化法の来年3月の終了

をにらみ、地場中小企業向けの財務コンサルティング機能を強化する。同日付で企業再生の実績を持つ弁護士法人「ブリスルーツ」(福岡市)所属の公認会計士▽青山総合会計事務所(東京)▽会計事務所の「スタンド・バイ・シー・コンサルテイング」(同)の3者と新たに組合員契約を締

結。各事務所・法人に所属する公認会計士や税理士計23人が、業務に参加できる態勢を構築した。同組合は昨年6月、ドーガン社が福岡市の公認会計士2人と設立。財務査定や経営再建計画の策定などを通じ、これまで九州内の30社程度の再生支援を手掛けている。円滑化法の終了をめぐり、取引先企業の再生支援に

取り組み金融機関などから持ち込まれる案件が増えつつあることから、人員態勢を大幅に拡充することにした。

同組合では、今後1年間で100社程度の受注を見込んでおり、今後も組合員を随時増やす。ドーガン社は「財務面にとどまらず、事業性コンサル力の強化も図る」としている。(永松英一郎)